

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [労働者福祉・共済](#) | [協同組合](#) | [海外の生活協同組合の歴史](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[協同組合](#)[労福協](#)[労働金庫](#)[全労済](#)[県生協連](#)[勤労者信用基金協会](#)[年金福祉協会](#)[福祉基金協会](#)[ユニオントラベル](#)[教育カリキュラム](#)[▶ キーワード検索はこちら](#)

海外の生活協同組合の歴史

生活協同組合のはじまりは、イギリスのロッヂデールに誕生した「ロッヂデール公正先駆者組合」と言われています。

18世紀後半から、イギリスでは産業革命がおこり社会経済が飛躍的に発展しました。しかし、労働者たちは低い賃金と高い物価で苦しい生活をおくっていました。このような時代を背景に、1844年工業都市ロッヂデールで、最初に店舗が開設され「ロッヂデール公正先駆者組合」が誕生しました。これは、当時の労働者28人が、自分たちの生活は自分たちで守ろうと、1人1ポンドのお金を出し合い、食料品や雑貨品を仕入れ、店舗を開設し組合員に販売する生活物資の共同購入を始めたものです。

当時、ロバート・オウエンの社会主義のプログラム「産業上の自由を持つ手段として、労働組合のかわりに、組合的な企業を組織すること」の思想を受けて多くの協同運動が組織されていたが、失敗に終わるのが常でありました。

ロッヂデール公正先駆者組合は、先人の失敗を踏まえることで運動を成功させることができました。その後も着実に発展を続け、他の協同組合との合併を繰り返し、その実践の中から考えられた組合運営の諸原則は、「ロッヂデール原則」と呼ばれ、世界各国の協同組合の運営原則となっている「協同組合原則」の基本となっています。

現在のイギリスの生活協同組合グループは、ロッヂデールの流れを組み、2008年末にイギリス協同組合連合会・生協部門に登録されている生協は20で、イギリス全土で約3000の店舗を運営し、小売市場のシェア8%、第5位にランクされています。

<ロッヂデール原則>

- ① 取引は市価で行い、そこから得た利益は購買高により組合員に配分する。
- ② 品質の純良（当時の社会状況では、物価が上がっても値段を上げられないため、混ぜ物を入れたり重量をごまかしたりすることが多かった）
- ③ 現金販売（労働者の負債を防ぐため）
- ④ 組合管理での組合員の平等、投票は、一人一票で委任不可の原則。

その後、1850年2月の総会での「宗教的な議論の禁止」についての議論から

- ⑤ 組合の政治的、宗教的な中立の原則（組合員の信仰と思想の自由の原則）が追加されました。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>> [一覧へ戻る](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**